

偽・誤情報を見抜く力を身につける 北陸朝日放送が小学校で出前授業を実施



日本民間放送連盟は、放送事業者と視聴者がともにメディアを主体的に読み解く能力を高め合っていくことが重要との認識のもと、会員社が実施するメディアリテラシー活動に対して助成を行っています。2024年度の助成対象事業に北陸朝日放送が企画した『新型コロナウイルス拡大初期から学ぶ「情報リテラシー」』が選定されました。

この事業は新型コロナウイルスの感染が国内で拡大し始めた2020年当時、石川県内に出回った偽・誤情報を題材として、子どもたちに“情報を見抜く力”を身につけもらうことを目的としています。新型コロナウイルスの報道に携わった北陸朝日放送の記者や、専門家が講師となり、石川県内の小学生を対象に世の中にあふれる情報の中から、偽・誤情報と正しい情報を見抜くための方法を学びます。また、体験型のプログラムやディスカッションを通して子どもたちの情報リテラシーの向上を目指します。

- 事業名:『新型コロナウイルス拡大初期から学ぶ「情報リテラシー」』
- 日程:2024年6月27日(木)勅使小学校(加賀市)、分校小学校(加賀市)
7月4日(木)錦城小学校(加賀市)、山代小学校(加賀市)
年度内に県内の1校でも実施予定
- 講師:立命館大学 白戸圭一教授、北陸朝日放送記者 谷口洸亮、吉中勇介